

無と死と愛

もっちープリンス

無は全てを個にする
死は全てを虚にする
愛は全てを温にする
無があるから死があるから愛がある
人間は生命というものを体中に感じながら
そう母親の胎内に造られた頃から
無と死と愛の宿命を背負う
いつしか僕らは大人になって
生命というものを純粹に捉えられなくなって
携帯電話の電話帳には人々の名前が
アミーバみたいに増幅してゆき
でも個と虚が愛を生み出す
宇宙の無情は地球に降り注ぎ
流れ星が今では星となった隣人の歴史を称えるためかのように
隣人の病室からのメール
枯れ果てた木の葉のような隣人
メール受信欄
数あるアミーバ達の中で灰色に映る
忘れていく数列のようなメール受信欄
人の記憶
うつすら、うすれていく悲しきサガ
未だに残る死した父母のメール受信歴
携帯電話に触れている指が無性な衝動と共に動き出す
メールを打っている
死した父母に打っている
何通も何通も打っている